8/30 朝日

23年上半期出生 37万人

止まらぬ少子化

通年も最少更新ペース

厚生労働省が二十九日公表した人口動態統計の速報値によると、二〇二三年上半期（一～六月）に生まれた赤ちゃんの数（出生数）は、前年同期比3・6％減の三十七万一千五十二人だった。速報値には外国人なども含む。二年連続の四十万人割れで、少子化に歯止めがかからない。この傾向が続けば、通年でも二三年と同様に八十万人を割り込み過去最少を更新するペースだ。

結婚しない人が増えたり、結婚年齢が高くなったりしたほか、新型コロナウイルス感染拡大による出産控えなどが影響した可能性がある。

上半期を比べると、二三年の出生数は〇〇年以降で過去最少だった。二三年上半期の出生数（三十八万四千九百四十二人）は前年同期比5・0％減で、今回は減少率が縮小した。

二三年上半期の婚姻数は7・3％減の二十四万六千三百三十二組。死亡数は2・6％増の七十九万七千七百十六人となり、出生数と差し引きした自然減は四十二万六千六百六十四人だった。

二三年通年の出生数は速報値で七十九万九千七百二十八人と、統計開始以来初の八十万人割れになっていた。速報値から外国人などを除いた「概数」は七十七万七百四十七人だった。

人口が減り続ければ、企業の経済活動や自治体の機能が維持できなくなり、医療や年金といった社会保障制度にも打撃となる。政府は「次元の異なる少子化対策」を掲げ、少子化傾向の反転を目指している。